

2024年10月3日

パルシステム生産者・消費者協議会

野菜部会長 塙 正樹

### 第13回青果フォーラム報告

- (1) 10月2日(水)パルシステム連合会東新宿本部2階第1会議室およびZoomにて、42産地84名、パルシステム関係者85名(東新宿51名、オンライン105接続118名)総勢169名の参加により、第13回青果フォーラムを開催しました。
- (2) 第1部のエコ・チャレンジ農産物基準改定では、パルシステム連合会第1産直部長の那須豊様より、基準改定の検討状況、野菜・果樹の産地論議の集約結果が報告され、その後の意見交換では、削減目標農薬について農薬再評価制度の進捗を踏まえて検討を進めること、種子消毒カウントについて特別栽培ガイドラインおよび5割減減を維持し、県ごとの運用の違いも踏まえ議論を進めること、除草剤については圃場外管理や電柵周辺など農薬削減と持続可能性の観点で検討議論を行うこと、エコ・チャレンジ栽培と普通栽培の並行生産など、野菜産地関係者のみならず果樹産地関係者を含めて、生産者・消費者双方の活発な意見交換が行われました。
- (3) 第2部のこれからの農業技術では、前半の報告として近郊産地部会(関東近郊の産直産地により構成される団体)の葉菜・果菜・根菜の3部会長による取り組み報告、夏の研修会での報告がされ、ドローンによるバイオスティミュラント剤散布の対象品目などの質疑が行われました。後半の報告では今後の農法・技術交流として、パルシステム連合会野菜課長の佐藤哲郎様より、産地アンケート結果と背景について、温暖化・酷暑・干ばつ対策、IPM(総合的病害虫・雑草管理)、土壌病害対策など、地域や産地組織、栽培区分を超えた全国的な情報交換と技術交流について報告と課題提起がされ、意見交換では温暖化による病害虫や雑草の植生への影響のほか、PTJのペイソー様よりタイにおけるバナナ生産での近年の高温・干ばつ状況報告をいただきました。
- (4) 第3部の野菜部会2024年度青果の見える化中間報告では、パルシステム連合会食料・農業政策推進室主任の田村忍様より、3か年計画2年目前半のトマト・ミニトマトを中心とした成分分析結果として、トマトは抗酸化力が測定平均値よりも高い傾向にあり、硝酸イオンは平均値を大きく下回る傾向があるほか、ミニトマトの食味評価が得られているとの報告をいただきました。
- (5) 最後に、パルシステム連合会常務執行役員の島田朝彰様より閉会のご挨拶をいただき、全てのプログラムが終了となりました。



PTJ代表のペイソー様によるご報告



第13回青果フォーラム東新宿会場の様子

以上